2017-18年度
国際ロータリー会長
イアン・ライズリー

Weekly Report Niigata

ロータリー：
変化をもたらす

国際ロータリー
2017-18年度テーマ

2017～18年度
新潟ロータリークラブ会長
徳永　昭輝

新潟 RC　7月第　3例会（2017.7.18）№3191

(1)　ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2)　徳永　昭輝会長挨拶

先日、会員の皆様に「3 分間スピーチのお願い」をさせて頂きました。

会員の小山楯夫さんから提供して頂いた「ロータリーの罠」のなかに、“ロータリーの親睦”について書かれていましたので紹介したいと思います。ロタリーの親睦は、”クラブの例会にたくさんのロータリアンが集まってきて、「お互いにおのれの至らざるところを他のロータリアンから学び合う、自己研鑽、切磋琢磨によってお互いに自らを高め合う、学び合う親睦のことであります”。さらに、ロータリアンが例会に心を持ち寄って、そして一つの境地を得て例会を去っていく「心を求めて例会に至り、境地を得て例会を去る」という言葉を引用し、その例会に持ち寄る心とは一体何か？一業種一会員制であったことから、会員は職業人としての心を持っており、様々な考え方がお互いに例会で交換されると、理想的な企業経営観、職業のあるべき姿はどんなものかということが交換される,この“いろいろな発想、いろいろなアイデアを交換する機能こそが、ロータリーが創設以来、大切に育ててきた機能である”とありました。

あるとき、「新潟 RC は物事が決まらないのが特徴だ。決めようとしてはいけない。会員一人一人が、職場に帰ればリーダーとして、その職業に誇りを持っている。方向さえ示せば、なるようになる！」といって慰められたことがありました。3 分間スピーチが、お互いに、本音を話し、理解し合い、親睦を深めあえる例会となるように期待したいと思います。

さて、前回の例会では「熱中症」について話しを致しました。今日は、医師になってすぐの夏、研修医であった時に経験した話をしたいと思います。平成元年 4 月から、NHK の今日の健康に「医師と患者の間で」に連載していた一文です。“ある夏の日の思い出”やけつく砂、きつい真夏の日差し、繰り返す波の音、そして、不気味なほど静まりかえった沈黙。わたしたちを取り巻く人々は、一言も語らず、彫像のように立ち尽くしていた。その夏の一日が、私にとって生涯忘れることのできない、医師としての第 1 歩であった。医学部を卒業して、私は内科・麻酔科研修と産婦人科専門医としての研修カリキュラムを選択し、当時は同僚と酒を酌み交わしながら、青臭い議論を日夜戦わせていた。「治療医学」中心の医学教育に対し、「予防医学」の必要性、患者のための医療を主張していた私は、“医師免許”があっても何もできない医師“に過ぎなかったことを思い知らされる 1 日となった。突然、日直室の電話が鳴った。消防署の救急隊から「海岸で病人が出たが、他の医師と連絡が取れないので一緒に来てほしい”との要請であった。病人の状況を聞く余裕もないまま、救急車に乗り込んだ。日和山海岸までの車中で、海水浴客が溺れたための救命救急出動と聞かされ、サーッと血の気が引いた。まだ救命処置のいろはも身についていない未熟の医師である。その時考えたことは、もし生きていたらどうしようという、医師にあるまじき思いだった。救急車はあっという間に浜辺についた。車から降りると、砂浜には二重三重の人垣が出来ていた。“これはえらいことだ”と思いながら、人垣を分けて中に入った。すでに、日赤救護班の人たちが、人工呼吸、心臓マッサージをしていて医師の到着を待っていた。視線が白衣を着た私に集まるのを感じた瞬間、心臓の鼓動が白衣を通して、透けて見えるのではないかと思うほど高まり、手に脂汗がにじんだ。動揺した私が最初にとった行動は、往診カバンから血圧計を取りだし、患者の腕に巻く動作だった。患者に触れると、真夏の昼間なのに、生臭い、異様な潮のにおいを感じて、初めて我に返った。血圧計を砂の上に投げ出して、慌てて脈を取り、瞳孔を診た。脈は触れず、瞳孔は散瞳し、すでに溺死の状態であった。「死亡しています」と言って、死亡確認時刻を告げた。それを聞くと救護隊員たちは“とっくにわかっていた”と言いたげに、処置を止め、引き上げて行った。帰りの救急車の中でも無言のままであった。あの暑い夏の日の，無様な自分の姿は、今なお私の心の中に深く突き刺さったままである。これはインターン制度が廃止され「研修医制度」で卒業後の研修をしていた時の話です。

日本のインターン制度は、1945 年、マッカーサー元帥の率いる連合軍総司令部の指導により、1946 年から 1968 年（昭和 43 年）8 月 30 日，勅令 402 号によって国民医療法が改正されるまで続きました。

インターン制度は、医学部卒業後、1 年間病院や保健所での研修を義務付け、インターン終了後に医師国家試験の資格が与えられるものでした。医師免許を持たないインターンの身分が不安定である、研修内容の不備ということから、インターン制度が廃止となりましたが、わたしはインターン制度が廃止となった 2 年目の、昭和 44 年に医学部を卒業したため、医師国家

試験を受けて医師免許を取得後に、「研修医制度」による卒後研修をすることになりました。産婦人科専門医となるために、自主研修プログラムとして内科、麻酔科、産婦人科研修を2年間行い、産婦人科教室に入局して産婦人科医になりました。

インターン制度は廃止され、研修医制度となりましたが、いまは「新たな医師臨床研修制度」になっています。しかし、この新しい研修制度は、大学の医局崩壊、大学教授の人事権がなくなり、大学医局の医師が不足するといった事態になり、関連病院からの医師の引き上げが起こり、医師の偏在・大都市集中、地方の医療の崩壊といった新たな問題を抱えています。2015年(平成27年)から一部改正された新医師臨床研修制度で行われていますが、医師の卒業後の臨床研修制度は、まだ多くの問題を抱えています。

本日は、私の苦い思い出と、医師の卒後研修制度について話をさせて頂きました。

(3)　委員会報告

・玉　親睦委員長　会員同士の親睦をはかるために様々な会合などを企画します。誕生日や結婚記念日を皆さんで祝います。新潟の旨いものを探訪する新企画も検討中です。来週は前橋クラブとの合同納涼会です。

・小林　建社会奉仕副委員長　23日(日)午前6時30分、関屋浜　Sea Point に集合し早朝清掃を実施致します。

(4)　各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(得永　哲史委員長)

石本隆太郎君

米山奨学会寄付発表(白勢　仁士委員長)

石本隆太郎君　　徳永　昭輝君

青少年育成基金寄付発表(小田　等委員長)

石本隆太郎君　　樋熊　紀雄君

小林　　悟君　　徳永　昭輝君

小田　　等君

(5)　幹事報告（織戸　潔幹事）

「会員3分間スピーチ」の実施

8月第一例会より会員3分間スピーチを開始します。

「会員名簿」の順番に沿って1例会3人で進めます。

初回8/1は、

秋山博一君、②浅田龍一君、③安藤　　智君の順です。

欠席等でスピーチ出来ない場合は、幹事まで事前連絡下さい。

尚、スピーチ内容を記録として残すことも検討しています。

合わせて文書での提出のご協力をお願い　　申し上げます。

(6)　会員スピーチ「新潟から世界へ～

ドナルドキーンさんのロンドン訪問」

㈱新潟放送　代表取締役会長　竹石　松次　君

(7)　７月　１８日例会の出席率　７９．５２　％

会員数　８８名（出席免除会員　８名）

出席者　６６名（出席免除会員３名を含む）

（2週間前メーク後　９２．７７　％）

８月１日の例会予定

第一例会につき卓話はございません。

新潟ロータリークラブホームページアドレス

http://www.niigatarc.jp/